
猫生活

朱雀桃子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

猫生活

【著者名】

朱雀桃子

N4872H

【あらすじ】

心の温かさと夢の匂いが交わるよつよつ。

私は猫で、名前はモモコ。

名前は飼い主がつけてくれた。

初めて飼い主の家に来た日、

【あなたは桃みたいに顔がまん丸だから、モモコだねー】
と言つたのを、今でも覚えている。

私の飼い主は、とても私によくしてくれる。
お腹が減つたら、『飯をくれるし、寂しくなつたら甘えさせてもくれる。

おまけに私専用の小屋まで用意してくれた。

だから私は、毎日快適に過ごすことができている。

最近私に友達ができた。

近所を散歩していくと、パン屋のおばあさんが私にパンをくれた。
私はそのとき、お腹が減つていたので、ペロリと食べた。

おばあさんは嬉しそうに

【まあ、あなたはパンが好きなんだね。よしよし、名前はパン君だね。】

と言つて、私の頭を撫でた。

【お腹が減つたら、またおいでね。パン君】

私がニヤーと甘えるように鳴くと、おばあさんは

【よしよし、私たちは友達だからね。パン君にこれをあげよ】
そう言つて、おばあさんがポケットから取り出したのは、鈴だった。

【この鈴を聞いたら、来たつてわかるからね】

おばあさんはそう言つて、私の首輪に鈴を付けてくれた。

【まあ、モモちゃん、その鈴どりしたの？】

仕事から帰ってきた、飼い主は不思議そうに私の鈴を見た。

私は眠かったので、聞こえないふりをして丸くなっていた。

【誰かがモモちゃんにくれたのかな。良かつたね、モモちゃん】

と言つて、私の首をいじり始めた。

私はお腹が減つたので、パンを食べに行こうと思つた。

おばあさんいるだらうか？と思いつつ、鈴をリンロンと鳴らしながら、歩いていた。

パン屋の前に来ると、一人の少年がいた。

少年は寂しそうに、パン屋の前のベンチ座つていた。

私は氣にもとめず、おばあさんが鈴に気づいて、外に出てくれるので待つた。

そうしてみると、少年が私に近寄つてきた。

【やい野良猫、ここにいても、誰も出でこないぞ・・・】

少年はしゃがみこみながら、私に言つた。

私は少年の言つている意味がわからなかつた。

【お前もパン屋のばあちゃんに会いにきたんだり？】

私がニヤーンと鈴を鳴らしながら答えると

【俺もだよ。】

と少年はポケットから、私が首輪に付けている鈴とまつたく同じものを出して、

リンロンと鳴らした。

【ここのはあちゃん、俺みたいな貧乏な子供にむ、パンをくれるんだよ。それで、お腹が減つたら、いつでもおいでつて言つてくれたんだ。。。鈴を鳴らせば、外に出てくるからつて・・・ばあちゃんが言つてんだよ・・・】

そういつた少年の口からは涙がこぼれていた。

【でも、ばあちゃん・・・死んじゃつたんだってさ・・・お前が来る前に、ばあちゃんの口那せんに言われたよ。】

私がニヤンと鳴くと、

【お前もばあちゃんから、パンを貰つてたんだな。仲間だな・・・。】

と少年は言つたあと、ワンワンと泣き始めた。

私は泣き止むまで、少年の傍にずっと立っていた。

家に帰ると、飼い主がとても怒っていた。

【遅い！モモちゃん！心配したじゃない！】

しかし私はこういうとき、どうすればいいのか知っていた。

私は飼い主の唇をぺろぺろとなめ始めた。

いつもすれば、飼い主はもう怒らないのだ。

【もう、モモちゃんにはかなわないな。ほら、ご飯だよ】

そういつて、私の大好きなペットフードがでてきた。

私は、今日も鈴をリンリンと鳴らしながら、生きている。
どこかで、鈴を付けている人や動物を見かけたら、それは私の仲間だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4872h/>

猫生活

2010年11月14日09時41分発行